

楽に自動化怠勤

大幅省力化◆正確性向上

【三重・伊勢】JA伊勢は、農繁期の勤怠管理にロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)ツールを活用し、大幅な省力化に成果を上げている。給与計算の正確性向上の他、事務担当者の負担軽減などにつながる。JAはIT・DX対策課を設置し、全国でも先進的にデジタルトランスフォーメーション(DX)対応を進めている。

三重・JA伊勢

集計し活用AI

JAはこれまで、農繁期の特別会計利用事業での勤怠管理は、JA職員が業務日誌やタイムカードで打刻していた。その後、施設担当者や別シートの集計して給与の計算していた。施設担当者が集計に約100時間もの時間を費やし、特別会計

りまとめた後、人事担当者が人工知能(AI)技術を活用した光学式文字読み取り装置(OCR)でシートを読み取る。職員は手入力せず、RPAが自動的に勤怠管理システムに勤務時間を登録する仕組みだ。すぐに集計できるため、給与の支払いは翌月に反映される。

JAのIT・DX対策課は「日々の決まった業務やデータ入力などの単純業務をRPAで自動化させることで、業務時間の改善やコスト削減につなげた」と話す。